

少年

大江豊

黒眼鏡を

掛けるようになったら

もう 男の子とは

呼ばれない

お医者さんにも

ひとりで

行かなければならない

もちろん 電車の切符は

まだ 子どものまま

乗つていいけど 座席は

譲らないと いけない

夜の東京駅から

駅名ではない 川と

橋の名前を 思い出し

水の眼鏡を掛けると

河童があらわれ 東国は

土偶の 謎々眼鏡

まだダイヤル式の

黒電話で 呼び出され

やつて来るような

黒眼鏡の 知らない

小父さんに

なりたい